



能登半島地震で

13万戸が断水

一部長期化も



1月1日に発生した能登半島地震では、日本海側を中心に6県（石川県・新潟県・富山県・福井県・長野県・岐阜県）で13万戸以上の断水が発生しました。

特に被害が大きかったのが、石川県の能登半島です。断水が起きた原因は、川などから水道水の元になる水を浄水場に送る「導水施設」、安全な水道水をつくる「浄水場」、浄水場から水をためる配水池までをつなぐ「送水管」、配水池から家などに水を送る



大きな被害を受けた輪島市

「配水管」と水源から蛇口までの水の通り道の多くが、地震で壊れてしまったからでした。水道に関する施設の多くは、水を通してみても壊れていないかを点検することができ、導水施設から順番に現地調査し、水を通して点検して、壊れていたら直すということを経道に行っていました。

こうした点検や直す作業を、被災したまちの人だけで行うのはとても大変



雪の中での給水

です。そのため、全国の水道局の人や、工事業者の人が石川県内に集まり、何か月もの間活動しました。また、水道施設がこわれて水道が使えず、困っている地域に対して、全国から給水車が駆けつけて、毎日水を配りました。水道水は、飲むだけでなく、トイレやお風呂にも、医療や産業にも大量に使われる大切なものです。

石川県では、地震から半年が過ぎても、断水したままの地域もあります。大きな土砂くずれがあったり、家が倒れたままで、新しい水道管を通せないことなどが原因です。



早く水を使えるよう、一時的に地面の上に水道管を通して様子

現地で活動する人の声

名古屋から七尾市へ

名古屋市上下水道局からの派遣で1年間、七尾市建設部上下水道課で勤務する奥村千恵さんに話を聞きました。

Q どうして名古屋市の職員が七尾市で仕事をしていますか

奥村さん 能登半島地震が水道施設に与えた被害は大きく、この状況を元の通りに戻すには、まだまだ長い時間と労力が必要です。そのため、より早い復興に向けて、七尾市を支援するため、派遣されました。

Q 七尾市の水道施設は、今どうなっていますか

奥村さん 能登半島地震から半年が経ち、現在は、七尾市全域に水がいきわたり、水道管は復旧されたかのように見えます。しかしながら、震災後、断水をいち早く解消するために、地中に埋まっていた水道管を地上に設置したり、漏水がひどい水道管は切り離して、正常な水道管とをつなぎ合わせるなど、緊急の処置を行いました。今、緊急の措置を行った水道管を震災前の姿に戻す作業を進めています。水道管は地中に網の目のように張



七尾市ではいまだに重要施設のポンプが故障し、十分に水が供給できない地域があるため、職員が交代で給水タンク車で給水を行っている(写真=給水タンク車へ水を入れている様子)

Q 奥村さんは1年間どんな仕事をしますか

奥村さん 地震による被害はとても大きく、七尾市だけで復旧を進めていくのは困難です。そのため、国からの支援を受ける必要があり、その支援を得るための資料作り等を行っています。また、地震前よりも、より安全で安定した給水ができるよう水道管全体の配置状況について検討も行っています。地震で自らも被災し、それでも復興に向けて一歩ずつ進んでいる七尾市役所の職員の手助けが少しでもできればと思っています。

